

# 児童に「認知症教室」

千種小で愛知淑徳大生



認知症を題材にした紙芝居を披露する愛知淑徳大の学生たち＝千種区の千種小で

千種区の千種小学校トワイライトスクールで五日、愛知淑徳大(長久手市)で認知症について学ぶ学生七人が、手作りの紙芝居やカードを使った「認知症教室」を開いた。

区役所などで構成する地域包括ケア推進会議が依頼。学生は、認知症を題材としたクイズや「神経衰弱ゲーム」を通して、児童四十人に楽しみながら理解を深めてもらった。

紙芝居「もしも桃太郎のおじさんが認知症になったら…」は、おじさんが

きび団子を食べってしまったり、桃太郎のことが分からなくなったりするストーリー。周囲はおじいさんのことを理解し、支え、おじいさんは得意のしぼ刈りで街をきれいにする。「周りが協力すれば、みんなが安心して暮らしていける」という意味を込めた。

三年の野中遙菜さん(二〇)は「思ってた以上に子どもたちは認知症を知っていた。どう対応したらいいのか話せてよかった」と話していた。

(水越直哉)

2019年9月8日(日) 中日新聞8面より

この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。